

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ (GCBⅡ)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	福井 綾		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	価値ある自分を認識し“志”を立て行動すること、あきらめずに強く人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。先人の生き方や言葉から“志”の立つとき、“志”とは何かを学ぶ。先輩やクラスメートたちの考えや意識に触れ自分自身を振り返り、自分の考えや意見も伝える機会を持つ。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		考えることの大切さを知る	
	○	○		○		自分の言葉で伝える大切さを知る	
	○	○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る	
	○	○		○		行動する大切さに気付く	
テキスト・教材 参考図書	1. GCBⅠテキスト 2. GCBⅡテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	感謝心と思いやりについて(GCBⅠを振り返り)			テキストにて復習		
	2	グローバルシティズンと志			テキストにて復習		
	3	なぜ志を立てることが大切なのか1			テキストにて復習		
	4	なぜ志を立てることが大切なのか2			テキストにて復習		
	5	自己を知る～私の過去・現在・未来～1			テキストにて復習		
	6	自己を知る～私の過去・現在・未来～2			テキストにて復習		
	7	伝える力を学ぶ1			テキストにて復習		
	8	伝える力を学ぶ2			テキストにて復習		
	9	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる1			テキストにて復習		
	10	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる2(先輩の講話)			テキストにて復習		
	11	自己の大切さと責任を自覚する			テキストにて復習		
	12	伝える力を実践する1(シナリオ作り)			テキストにて復習		
	13	伝える力を実践する2(3分間スピーチ)			テキストにて復習		
	14	伝える力を実践する3(3分間スピーチ)			テキストにて復習		
15	まとめ			テキストにて復習			
評価方法	(1)レポート 80(%) (2)発表 20(%) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎		◎		80%
	発表・作品	◎	◎		◎		20%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)	Seminar for Anatomy						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	身体の基本的構造として、神経系に関する解剖学的構造の理解を図る。また、組織学の演習より組織に関する構造の理解を図る。講義形式として概要となる講義を実施した後、自ら課題を進め解剖学的構造と名称を理解し、学生間で演習を進める。各項目においてまとめテストを実施し国家試験レベルで理解度を図る。また、身体構造位置関係の総合理解として、検体解剖見学を実施する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				組織の名称と構造を演習より理解し、国家試験問題で解答できる。	
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。	
	○	○				身体臓器の位置関係や名称を演習より理解する。	
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	身体の構造の理解 神経系 I 概要(中枢・末梢 神経の概要)			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	2	身体の構造の理解 神経系 II 中枢神経① 脳の構造			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	3	身体の構造の理解 神経系 III 中枢神経② 大脳皮質・大脳基底核			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	4	身体の構造の理解 神経系 IV 中枢神経③ 間脳・中脳・橋・延髄・小脳			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	5	身体の構造の理解 神経系 I ~ IVのまとめ			国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。		
	6	身体の構造の理解 感覚器			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	7	身体の構造の理解 脳神経・自律神経			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	8	身体の構造の理解 脊髄の構造・脊髄神経			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	9	身体の構造の理解 伝導路(遠心性・求心性)			構造、名称の理解を自己学習にて進める。		
	10	身体の構造の理解 感覚器～伝導路までのまとめ			国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。		
	11	組織学演習①			演習にて自己学習を進める		
	12	組織学演習②			演習にて自己学習を進める		
	13	組織学演習のまとめ			確認テスト 国家試験問題にて確認		
	14	肉眼解剖学演習			検体 解剖より理解を得る		
15	解剖学演習全体のまとめ			解剖学の範囲の国家試験問題に解答できる。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを複数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	坂口 博信 大津 隆一		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにするを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎	◎	◎		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第5版 医学書院 参考図書: コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	電気生理の基礎			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	2	実習 運動神経伝導速度の測定(誘発筋電図)			実習した内容をレポートできる整理しておく		
	3	レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	4	知覚と行動(脳の仕組み)			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	5	実習 随意運動の反応時間			実習した内容をレポートできる整理しておく		
	6	レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	7	体性感覚			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	8	実習 体性感覚1(2点識別・触圧覚)			実習した内容をレポートできる整理しておく		
	9	実習 体性感覚2(温度感覚)			実習した内容をレポートできる整理しておく		
	10	レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	11	脳波 レポート作成			実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること		
	12	心電図			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
	13	心電図 レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる		
	14	呼吸量			学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと		
15	呼吸量 レポート作成			実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎	◎	◎		100%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅱ						
科目名(英)	KinesiologyⅡ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	大内田 由美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行) ・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようになる。(変形、異常歩行) ・運動の学習について理解する。(運動学習) 						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。	
	○	○				運動器疾患で見られる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。	
	○	○				運動学習(運動学習の段階やフィードバック、練習法など)について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一・齋藤宏・長崎浩:基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版 2)嶋田智明・平田総一郎 監訳:筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版 3)配布資料 参考文献: 1)山崎敦:運動学. 羊土社 2)I A Kapandji(荻島秀男監訳):カパンディ関節の生理学. 医歯薬出版 3)PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編. 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	肩関節の構造と機能(上肢帯、肩甲上腕関節、胸鎖関節、肩鎖関節) 肩関節の構造と機能(烏口鎖骨間メカニズム、肩甲胸郭関節、第2肩関節)				資料と動画を用いて復習	
	2	肩関節の臨床運動学 肘関節・前腕の構造と機能				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	3	肘関節・前腕の臨床運動学 手関節の構造と機能				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	4	手関節の臨床運動学 手指の構造と機能				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	5	手指の臨床運動学 手指の変形機序				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	6	上肢のまとめ 股関節の構造と機能(関節の構造、靭帯、関節の運動)				資料と動画を用いて復習	
	7	股関節の構造と機能(股関節の安定に関与する因子) 股関節の臨床運動学				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	8	膝関節の構造と機能(関節の構造、膝蓋骨、関節半月、靭帯) 膝関節の構造と機能(関節の運動)				資料と動画を用いて復習	
	9	膝関節の臨床運動学 足関節・足部の構造と機能				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	10	足関節・足部の臨床運動学 足の変形				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	11	下肢のまとめ 体幹の構造と機能 体幹の臨床運動学				資料と動画を用いて復習	
	12	体幹の臨床運動学 正常歩行(歩行周期)				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
	13	正常歩行(歩行の決定因、床反力、歩行時筋活動、小児と高齢者の歩行の特徴)				資料と動画を用いて復習	
	14	異常歩行 運動学習(運動能力、学習の転移、運動パフォーマンス、運動技術、動機づけ)				資料と動画を用いて復習、復習テスト	
15	運動学習(運動学習の段階、フィードバック、練習法と学習曲線) 運動学習(運動学習理論、運動学習を支える神経機構)				資料と動画を用いて復習、復習テスト		
評価方法	(1)授業の中で小テストを7回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	◎	◎				100%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	人間発達学								
科目名(英)	Human Development								
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小野 仁				
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部1年								
授業概要	発達障害のリハビリテーションを実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互的に関係しあって生じる 発達の多様性を小児期を中心に学習する。また、各ライフステージにおいて、人として前向きに生きるということを考える。								
授業形式形態	講義:	○	演習:		実習:	△	実技:		※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を理解する。			
	○	○				発達理論の歴史とその変遷を知り、各領域の代表的な発達理論を理解する。			
	○	○				乳児期、幼児期、学童期における発達の特徴を理解する。			
	○	○		○		保育園実習で、こどもたちの安全に配慮し、こどもたちと楽しく一日過ごす。			
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 編 シンプル理学療法作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 南江堂 参考文献:(1)社団法人日本作業療法士協会監修:作業治療学3 発達障害、協同医書、2010 (2)上田礼子:生涯人間発達、改訂第2版 三輪書店、2012 (3)J.H.de Hass:乳児の発達一写真で見る0歳児一、医歯薬出版、1977 (4)上杉雅之:イラストでわかる人間発達学、医歯薬出版、2015 その他								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	人間発達とは?				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	2	発達理論とその価値観;運動発達、認知・心理発達の視点から				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	3	発達理論とその価値観;行動発達、社会的発達の視点から				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	4	運動機能の発達;体格、姿勢の発達				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	5	保育園実習				一日こどもたちと過ごすので体力が必要です。その他、準備物等は伝えますので、当日忘れないようにして下さい。			
	6	保育園実習後のグループ発表				レポート作成と発表を行ってまいります。			
	7	運動機能の発達;胎児期～新生児期				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	8	運動機能の発達;胎児期～新生児期				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	9	運動機能の発達;幼児期～学童期				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	10	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	11	認知機能の発達;ピアジェの認知発達段階				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	12	情緒の発達;乳児期～学童期のパーソナリティの発達				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	13	社会性の発達;乳児期～学童期の日常生活能力の発達				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
	14	言語の発達;乳児期～学童期				Teamsで課題を出しますので提出してください。			
15	遊びの発達;乳児期～学童期				Teamsで課題を出しますので提出してください。				
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施します。(2)定期試験(筆記)を实します。(3)毎授業後Teamsで質問を配信します。 以上を下記の観点・割合で評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○	○				60%		
	小テスト	○	○				20%		
	レポートとTeams課題の提出	○	○		○		20%		
履修上の注意	※毎授業の後、理解確認のため、Teamsで質問を配信しますので、何かしらの回答をお願いします。 ※保育園実習の日程を調整が必要ですので、順番は前後する可能性があります。10月を予定しています。								

科目名	基礎医学講座Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	目野 昭治		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	中枢神経系の構造や働きを学び、中枢神経系の疾患の理解を深める。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経系の機能構造について説明できる。	
	○	○				授業内容に沿った作業療法士国家試験の問題を解答し説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	中枢神経系;基本的働き, 神経系の発生, 神経組織を構成するもの, 中枢神経系の全体像			教科書の予習をしておく。		
	2	脳を保護するもの; 頭皮、脳被膜。頭蓋骨			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	3	脳の血管、脳室と脳脊髄液			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	4	脳区分と局所徴候、後頭葉、側頭葉、頭頂葉			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	5	前頭葉、辺縁系、間脳			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	6	脳下垂体、脳幹、中脳、橋、延髄			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	7	小脳、脊髄			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	8	脳神経総論、嗅神経、視神経、			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	9	動眼神経、滑車神経、外転神経			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	10	三叉神経、顔面神経			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	11	聴神経、舌咽神経、迷走神経			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	12	副神経、舌下神経、自律神経			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	13	主な神経路			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	14	運動麻痺、上行性伝導路			教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。		
	15	下行性伝導路、脳ヘルニア			教科書の予習をしておく。 授業の範囲のノートを振り返る。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)	Pathology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	ヒトの各器官を構成する組織の基礎的働きを知り、各臓器に発生する主だった疾病の成り立ちの機序と病態を理解する。疾病を先天異常、代謝障害、循環障害、炎症と免疫、腫瘍と大きく5項目に分類しながら、それぞれの特徴をとらえ、疾患の基礎的概念を理解し、人に説明することができる。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上で病理学において、病気の原因や病態を知り、説明できる。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に説明できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1)第5版 医学書院 参考文献: 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞機能の基礎				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	2	病理学と疾患概念				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	3	内因と外因				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	4	細胞損傷と組織反応				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	5	損傷治癒				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	6	炎症と免疫				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	7	移植とアレルギー				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	8	再生医療 感染症				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	9	循環障害				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	10	代謝障害1				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	11	代謝障害2				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	12	先天異常				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	13	腫瘍1				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	14	腫瘍2				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	15	まとめ				本日の内容をもって国家試験対策に取り組む	
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	整形外科学					
科目名(英)	Orthopedic Surgery					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	福岡大学整形外科教室	
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年					
授業概要	整形外科の基礎知識、各種治療法、整形外科疾患について理解する。整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解し、臨床実習で必要な知識を習得する。					
授業形態	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
	※ 主たる形態:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				整形外科疾患に関する基礎知識について説明できる。
	○	○				整形外科における各疾患の成り立ちや臨床像を説明できる。
	○	○				整形外科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。
	○	○				リハビリテーションにおいてセラピストが関わる整形外科疾患の治療実践を説明できる。
テキスト・教材 参考図書	教科書:「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	整形外科概論 (整形外科とは、運動器の評価及び検査法、治療法)				テキストを用いた復習
	2	骨折 1 (上肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習
	3	骨折 2 (体幹・下肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習
	4	脊髄損傷				テキストを用いた復習
	5	末梢神経における外傷性疾患 1(外傷性疾患各論)				テキストを用いた復習
	6	末梢神経における外傷性疾患 2(絞扼性神経障害・その他)				テキストを用いた復習
	7	関節における外傷性疾患 (捻挫(TFCC)、脱臼(肩・肘・股関節など))				テキストを用いた復習
	8	スポーツ障害(スポーツ障害の概論、急性・慢性のスポーツ外傷)				テキストを用いた復習
	9	腱・靭帯における外傷性疾患(筋・腱・靭帯の概論、腱板断裂、手の腱損傷)				テキストを用いた復習
	10	熱傷、切断と離断(熱傷の病態、治療、切断・離断の原因、部位、義肢、その他)				テキストを用いた復習
	11	骨・軟部腫瘍				テキストを用いた復習
	12	脊椎の疾患(脊柱の変形、奇形、椎間板ヘルニア)				テキストを用いた復習
	13	神経・筋疾患(脳性麻痺、神経麻痺)				テキストを用いた復習
	14	先天性骨・関節疾患(代表的な疾患とその特徴)				テキストを用いた復習
	15	循環障害と壊死性疾患(骨壊死、骨端症など)				テキストを用いた復習
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎	◎			
	小テスト					
	宿題・レポート					
	発表・作品					
評価割合						
履修上の注意						

科目名	内科学						
科目名(英)	Internal medicine						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	眞崎 義憲		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	即臨床に役立つ内科の基礎を学びます。講義の内容はほぼガイダンスに従いますが、随時最新医学情報を取り入れます。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				各疾患の特徴や病気の成り立ちを理解することができる。	
	○					医療現場の実情や新しい知見を知ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	診断と治療・症候学			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	2	循環器疾患 総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	3	循環器疾患 各論1			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	4	循環器疾患 各論2			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	5	呼吸器疾患 総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	6	呼吸器疾患 各論1			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	7	呼吸器疾患 各論2			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	8	消化器疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	9	肝胆膵疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	10	代謝性疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	11	腎・泌尿器疾患総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	12	腎・泌尿器疾患各論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	13	血液・造血器疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	14	膠原病・アレルギー疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	15	感染症疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurological Medicine I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	福井 綾		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として施設勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	神経内科における基礎知識や各種疾患における特徴や評価などについて学ぶ。 神経内科疾患についてイメージできる。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科における関連基礎知識を学び、具体的に説明・解説することが出来る。	
	○	○				各疾患・症状について特徴などを最低3つは記述出来る。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学:医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版 病気が見える⑦脳・神経 第2版:メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	神経内科疾患を知る(動画鑑賞)			神経内科疾患をいくつか事前に調べる		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学①			神経内科に関与する解剖・生理・病理学について事前学習		
	3	神経内科に必要な生理、病理、解剖学②			神経内科に関与する解剖・生理・病理学について予習・復習		
	4	まとめ/小テスト1			神経内科に必要な生理・病理・解剖学に関する小テスト、解説		
	5	運動路について(錐体路)			錐体路について予習・復習		
	6	運動の調節(中枢性麻痺と末梢性麻痺)			中枢性・末梢性麻痺について予習・復習		
	7	感覚路、自律神経、末梢神経について			感覚路・自律神経・末梢神経について予習・復習		
	8	まとめ・反射について/小テスト2			運動路・運動調節・感覚路・自律神経・末梢神経について小テスト、解説/反射について事前学習		
	9	脳神経(前編)			各種症状について事前学習・復習		
	10	脳神経(後編)			各種症状について事前学習・復習		
	11	まとめ/小テスト3			脳神経について小テスト、解説		
	12	錐体外路と不随意運動・小脳の運動調節			各種症状について事前学習・復習		
	13	高次脳機能障害1(主な、失認/失語/失行)			各種症状について事前学習・復習		
	14	高次脳機能障害2(その他/認知症)			各種症状について事前学習・復習		
	15	まとめ/小テスト4/講義の振り返り			錐体外路・高次脳機能障害について小テスト、解説/講義全体について課題部分を確認・復習		
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				40%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	pediatrics						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	平田 由起		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法士にとって必要な小児疾患の基本的知識を習得し、小児のリハビリテーションに応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	理学療法学 作業療法学専門基礎分野 小児科学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 小児科学概論1				教科書で範囲の予習しておく。	
	2	第1章 小児科学概論2				教科書で範囲の予習しておく。	
	3	第3章 新生児・未熟児疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
	4	第4章 先天異常と遺伝病				教科書で範囲の予習しておく。	
	5	第5章 神経・筋・骨系疾患1				教科書で範囲の予習しておく。	
	6	第5章 神経・筋・骨系疾患2				教科書で範囲の予習しておく。	
	7	第5章 神経・筋・骨系疾患3				教科書で範囲の予習しておく。	
	8	第6章 循環器疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
	9	第7章 呼吸器疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
	10	第9章 消化器疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
	11	第10章 内分泌・代謝疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
	12	第11章 血液、第8章 感染症				教科書で範囲の予習しておく。	
	13	第12章 免疫・アレルギー疾患、膠原病				教科書で範囲の予習しておく。	
	14	第13章 腎・泌尿器系・生殖器疾患、14章 腫瘍性疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
15	第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待、第16章 重症心身障害児、第17章 眼科・耳鼻科的疾患				教科書で範囲の予習しておく。		
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical Psychology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていただけるために、他者とのかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				心理アセスメント(知能検査, 性格検査, 適性検査)を列挙できる。	
	◎	◎				発達および人格理論の種類と概要を説明できる。	
	◎	◎				各種心理療法の種類とその概要を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「心とかわる臨床心理 基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫(著)ナカニシヤ 出版 参考文献:「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 渡邊映子・勝倉孝治編集 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床心理学とは				教科書の該当部分の予習をする	
	2	人格理論①: 精神分析理論、分析的心理学				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	3	人格理論②: 自己理論、自己愛理論				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	4	発達理論①: 分離一個体化理論、対象関係論				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	5	発達理論②: 漸成発達理論				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	6	心理アセスメント①: アセスメントとは、発達検査、知能検査				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	7	心理アセスメント②: 人格検査(質問紙法)				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	8	心理アセスメント③: 人格検査(投影法)、その他の検査				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	9	心理療法①: 基本的態度、クライエント中心療法				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	10	心理療法②: 精神分析療法、分析的心理療法				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	11	心理療法③: 遊戯療法、芸術療法				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	12	心理療法④: 森田療法、家族療法				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	13	心理療法⑤: 行動療法、認知行動療法				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
	14	心理療法⑥: 自律訓練法、集団精神療法				授業内容に該当する教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく。	
15	まとめ				全体の内容について復習し、質問したい事をまとめておく。		
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	精神医学 I						
科目名(英)	Psychiatry I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	① 精神機能や精神疾患についての理解 ② 精神疾患の症状や治療・福祉などについて理解する						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神機能や精神疾患について説明できる。	
	○	○				精神疾患の症状や治療・福祉などについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	上野武治 著: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学: 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	三大精神病と3つの成因			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	2	精神機能の評価(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	精神機能の評価(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	統合失調症(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	統合失調症(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	統合失調症(3)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	感情障害(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	感情障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	神経症性障害(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	神経症性障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	摂食障害、行動の問題、性の障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	人格の障害とDSM、ICD診断基準(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	人格の障害とDSM、ICD診断基準(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	これまでのまとめ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	定期試験						
評価方法	成績処理方法: (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床医学講座 I						
科目名(英)	Clinical medicine course I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	中山 仁		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	臨床医学の中で整形外科をはじめ、神経内科学や精神医学を中心に、国家試験の該当問題を解答できるよう知識を身につける。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		整形外科の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる	
	○	○		○		神経内科学の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる	
	○	○		○		精神医学の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる	
テキスト・教材 参考図書	・病気がみえる ⑪運動器・整形外科 ・病気がみえる ⑦脳・神経 ・他、オリジナル資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 整形、神経内科、精神科の疾患の概要				教科書の予習をしておく。	
	2	整形外科学 1)骨折 上肢(肩周囲:上腕、前腕、手関節)				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	3	整形外科学 2)関節リウマチ RA				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	4	整形外科学 2)関節リウマチ OA				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	5	整形外科学 3)脊髄損傷 脊椎損傷				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	6	整形外科学 3)脊髄損傷 脊髄損傷				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	7	神経内科学 1)CVA(脳血管障害) 脳梗塞				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	8	神経内科学 1)CVA(脳血管障害) 脳出血				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	9	神経内科学 2)パーキンソン病				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	10	神経内科学 3)筋萎縮性側索硬化症				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	11	精神医学 1)精神疾患全般				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	12	精神医学 2)統合失調症				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	13	精神医学 3)感情・気分障害(うつ病/躁うつ病)				授業内容の復習を行い、配布されたオリジナル資料の準備を行う。	
	14	疾患 振り返り学習(国家試験、応用問題) まとめ 1				総合的理解の復習、解釈を行う。	
15	疾患 振り返り学習(国家試験、応用問題) まとめ 2				総合的理解の復習、解釈を行う。		
評価方法	(1)授業の中で演習・レポート課題を実施する。(2)14回:振り返り学習の中で「理解度チェック」を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	◎	◎		◎		40%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		80%
発表・作品							
履修上の注意	※欠課などにより授業が受けられなかった場合は、テーマに沿ったレポート提出ができれば配点あり。						

科目名	リハビリテーション概論Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to Rehabilitation Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	リハビリテーション医療はチームアプローチが基本である。多職種の役割と専門性を知ることや、多職種から作業療法士に期待されていることを知ることは、多職種連携するうえで非常に重要となる。本科目では作業療法士以外である9職種の専門性について教授し、各障害領域でのチームアプローチの実際についても講義を行う。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各専門職と役割について説明できる	
	○	○				各リハビリテーションの分野・領域における専門職の役割を説明できる	
	○	○				チームアプローチについて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	セラピストのための概説リハビリテーション 第2班(文光堂)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハビリテーションに関連する専門職			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	2	作業療法士(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	3	理学療法士(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	4	言語聴覚士(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	5	義肢装具士(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	6	看護師(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	7	精神保健福祉士(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	8	介護福祉士(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	9	臨床心理士(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	10	医療ソーシャルワーカー(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	11	医師(役割と専門性)			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	12	身体障害領域でのチームアプローチの実際			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	13	精神障害領域でのチームアプローチの実際			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
	14	発達障害領域でのチームアプローチの実際			教科書の予習をしておく。 振り返りシートで復習する。		
15	まとめ			教科書の予習をしておく。 レポートを作成する。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	レポート	◎	◎				20%
履修上の注意	授業計画は変更になることがあります。事前に連絡致します。						

科目名	作業療法評価学 I						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生						
授業概要	リハビリテーションにおける評価とは何かを学習する。 その中でも、面接・観察、その記録方法の概要を学習する。 作業に焦点を当てた評価ツールを用いて、作業療法における面接・観察の視点を学習する。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					作業療法における評価の視点を説明できるようになる。	
			○	○		作業療法面接評価であるCOPM・OSA- IIを使用し、作業上の問題を聞き出せるようになる。	
			○	○		作業療法観察評価であるACIS・AMPSを用いて観察視点を増やすことができる。	
	○	○				人の作業上の問題が生じている理由を、人間作業モデルの枠組みを使って説明することができる。	
	○				各評価の名称、対象、目的、使用方法を理解することができる		
テキスト・教材 参考図書	配布パワーポイント資料 ①COPM/AMPSスターティングガイド、②OSA使用者手引、③ACIS使用者手引						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	評価の意味と目的・・・作業療法評価とは何のために行うのか？			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	2	面説について／観察について			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	3	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	4	COPM実施方法と演習			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	5	COPM評価演習			COPMの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
	6	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	7	OSA実施方法と演習			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	8	OSA評価演習			OSAの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
	9	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	10	AMPS運動技能項目と演習			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	11	AMPS処理技能項目と演習			AMPSの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
	12	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS概要)			まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと		
	13	ACISを使用した事例			小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと		
	14	ACIS技能項目と演習)			ACISの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと		
15	授業全体のまとめ			全てのテキスト/資料/自分の作成したレポートを用意しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)レポートを3回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト		◎				40%
	宿題・レポート	◎		◎	○		60%
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	見学実習						
科目名(英)	Clinical tour training						
単位数	1単位	時間数	45時間	担当者	作業療法学科教員 臨床実習指導者		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士として求められる倫理観や基本的態度を身につける。作業療法の評価や治療場面を見学し、作業療法士の臨床思考過程、医療現場におけるコミュニケーションの重要性とその技能について学習する。また、見学実習で経験したことについても報告する。						
授業形態	講義:	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士に求められる倫理観や基本的態度を実践できる。	
		○		○		多職種連携における作業療法部門の役割と特色、また他職種の役割について説明できる。	
		○	○	○		多くの作業療法実践場面を見学し、その臨床思考過程を聞いて、今後必要な知識や技術を把握する。	
		○		○		見学実習で得た知識や経験を他者と共有し、他者の経験から多様な視点、考え方を学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)見学実習ガイダンス 2)PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ●見学実習事前セミナー:1月29日(月)～2月10日(土) <ul style="list-style-type: none"> ・実習における感染対策やリスク管理に関する講義を実施する。 ・見学実習に必要な知識・技術について講義等を実施する。 ●見学実習:2月13日(火)～2月24日(土) <ul style="list-style-type: none"> * 施設の就業規定に応じて上記期間内で1週間実施(5日/週を基本とする) ●見学実習事後セミナー:2月26日(月)～3月2日(土) <ul style="list-style-type: none"> ・各施設で学んだことを共有するグループワークと実習内容の発表を実施する。 ・見学実習提出課題について担当教員よりフィードバックを受ける。 					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習成績報告書に基づく臨床実習指導者による採点と学校への提出物、実習前後セミナーでの報告、態度・参加状況などを 総合的に判断して100点満点で判定する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習課題の遂行		◎	◎	◎		60%
	提出課題		◎		◎		20%
発表		◎		◎		20%	
履修上の注意							